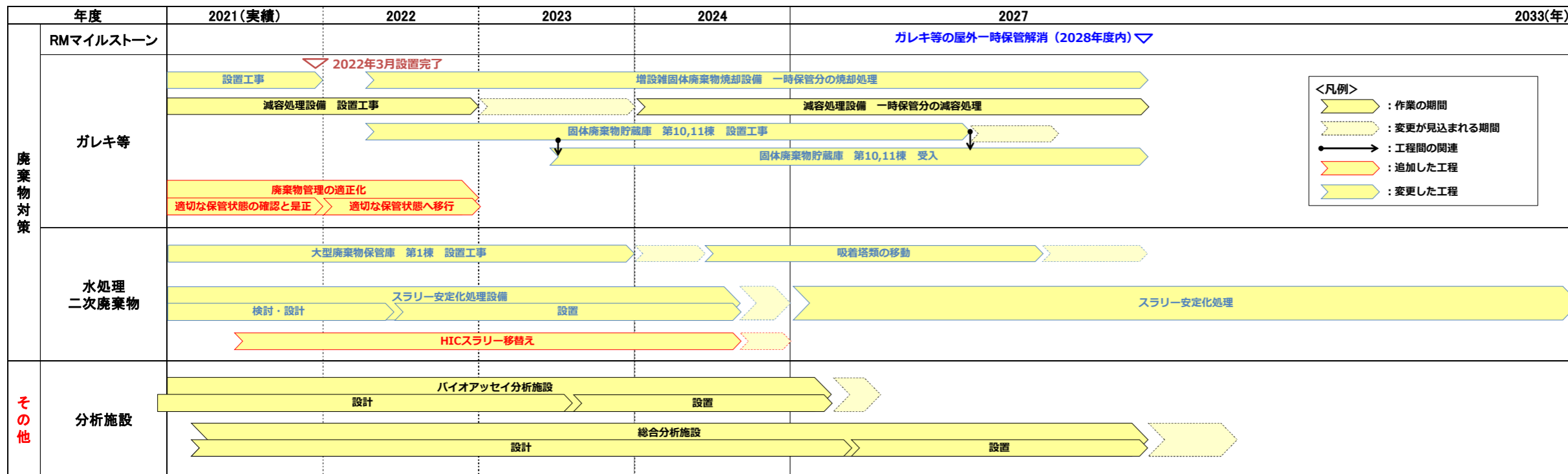


放射性廃棄物処理・処分 スケジュール

分野名	概略	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月以降			備考
				21	28		4	11	18	25	1	8	15	22	29		5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	
●ガレキ等の屋外一時保管解消 (2028年度内)	保管管理計画	一時保管エリアの変更	(実績/予定) [A系] [B系]	検討・設計																								
		雑固体廃棄物焼却設備	(実績) ・処理運転 (A・B系) ・ばい煙測定 (A系) ・廃油ランス清掃 (B系) (予定) ・処理運転 (A・B系) ・年次点検 (A・B系)	現場作業	処理運転																						・A系のばい煙測定を実施するためにB系の運転を一時停止し、併せて廃油ランスの清掃作業を行う (B系: 8/22~8/25) ・2023年1月より年次点検を実施予定 (詳細工程調整中)	
		増設雑固体廃棄物焼却設備	(実績) ・原因調査・点検 ・亀裂部復旧 ・ボルト締結部復旧 (予定) ・亀裂部・ボルト締結部復旧・動作確認等 ・運転再開 (10月中旬) ・電源停止 (11/18~12/1)	現場作業	原因調査・点検																						・ボルト締結部に関して、ボルト手配、ボルト穴拡張、再締結を実施していく ・上位電源盤改造工事の影響により、増設雑固体への非常用系の電源供給が停止するため、当該期間は運転停止とする	
		除染装置 (AREVA) スラッジ	(実績) ・スラッジ対処方法検討 ・建屋内線量低減 ・プロセス主建屋仮設構台の据付 (予定) ・スラッジ対処方法検討 ・建屋内線量低減 ・プロセス主建屋仮設構台の据付、開口部設置	検討・設計 現場作業	スラッジ対処方法検討																						・2021年11月22日監視・評価検討会を踏まえ、閉じ込め機能に関する設計見直しを実施中 ・ダスト対策設計の追加により設計期間を変更 ・設計進捗を踏まえ設計期間を変更 (2023年6月完了予定) ・プロセス主建屋内の線量低減対策 (干渉物除去) に用いる遠隔運搬機、スラッジ抜き出し装置の搬入を目的に、「仮設構台の据付、開口部設置」を2021年9月より実施する ・2021年9月16日: 仮設構台の据付着手	
		減容処理設備	(実績) ・壁設置工事 ・内装、設備工事 (建築、機電) (予定) ・壁設置工事 ・内装、設備工事 (建築、機電) ・外構工事 ・放管関係工事	現場作業	壁設置工事																						・2023年5月: 設備竣工	
		固体廃棄物貯蔵庫第10棟	(実績) ・設計検討 ・地盤改良工事 (10-A~C棟) (予定) ・設計検討 ・地盤改良工事 (10-A~C棟) ・建築工事 (10-A~C棟)	検討・設計 現場作業	設計検討																						・2023年9月: 10-A棟竣工 (工程調整中) ・2024年1月: 10-B棟竣工 ・2024年11月: 10-C棟竣工 ・2021年2月13日の地震に関する影響評価を踏まえ、見直しを実施	
		固体廃棄物貯蔵庫第11棟	(実績/予定) ・設計検討	検討・設計	設計検討																						・2021年2月13日の地震に関する影響評価を踏まえ、追加の耐震評価を実施予定	
		大型廃棄物保管庫	(実績) ・設計検討 ・外壁工事 (予定) ・設計検討 ・外壁工事 ・クレーン設置工事	検討・設計 現場作業	設計検討																						・2/13の地震に関する影響評価を踏まえ、2023年度竣工を目標に、見直しを実施	
		●水処理二次廃棄物	スラリー安定化処理設備	(実績) ・安定化処理設備の設計方針検討 (予定) ・安定化処理設備の詳細設計検討 ・建屋現地工事	検討・設計 現場作業	安定化処理設備の設計検討																					・2022年度内に建屋現地工事を開始予定。 (2025年3月完了予定)	

分野名	廃炉中長期実行プラン2022 目標工程	業務	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	8月		9月				10月			11月			12月			1月			2月			3月以降			備考		
					21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	1	8	15	22	29	5	12	19	26			
●その他廃棄物対策関連作業	3. 固体廃棄物の性状把握			(実績) ・サンプリング計画検討 ・汚染水分析・水処理二次廃棄物分析  (予定) ・サンプリング計画検討 ・計画に基づいたサンプリングの実施 ・瓦礫類分析 ・汚染水分析・水処理二次廃棄物分析	検討・設計	サンプリング計画検討																					<ul style="list-style-type: none"> <li>多核種除去設備の運転状況に応じて順次試料を採取</li> <li>・9月14日に分析試料（瓦礫）の輸送を実施</li> <li>・水処理二次廃棄物：ALPS吸着材等を分析中</li> <li>・これまでの分析結果は以下のウェブページにまとめられている リスト：<a href="https://clads.jaea.go.jp/rd/tech-info.html">https://clads.jaea.go.jp/rd/tech-info.html</a></li> <li>検索：<a href="https://frandl-db.jaea.go.jp/FRAnDL/">https://frandl-db.jaea.go.jp/FRAnDL/</a></li> </ul>				
					現場作業	瓦礫類分析																									(分析継続)
					現場作業	汚染水分析・水処理二次廃棄物分析																									
					現場作業	試験運用・分析準備																									
●分析施設	4. 分析・研究施設の設置	JAEA分析・研究施設第1棟		(実績) ・試験運用・分析準備  (予定) ・放射性物質を用いた分析作業 (分析法の妥当性確認/研究開発による分析を含む)	現場作業	試験運用・分析準備																					(分析継続)	・2022年6月竣工			
					現場作業	放射性物質を用いた分析作業(分析法の妥当性確認/研究開発による分析を含む)																									
		バイオアッセイ施設		(実績/予定) ・詳細設計(準備作業)	検討・設計	詳細設計																						(2023年8月完了予定)			
		総合分析施設		(実績/予定) ・設計検討	検討・設計	設計検討																						(2024年3月完了予定)			

廃炉中長期実行プラン2022



# 1F廃炉における分析計画の策定について (分析計画策定の進め方)

**TEPCO**

---

2022年9月29日

東京電力ホールディングス株式会社

# 分析計画策定について

- 1F廃炉における分析は、構内分析施設、茨城地区分析施設を活用しながら補助事業(IRID)・JAEAと分担して実施してきており、JAEA分析・研究施設第1棟(2022/6竣工)や第2棟・東京電力総合分析施設(計画中)など分析能力の強化を着実に進めている。
- 一方、廃棄物分析に関しては、当初より放射能濃度や物性などの性状把握を指向していたものの、廃棄物の保管管理を遂行するにあたり、大量に発生する瓦礫類がフォールアウト汚染起因であったために表面線量率測定による区分に注力してきた。このため、性状把握を目的とした分析が計画的に行われてこなかったことから、今後の廃炉作業の進捗に合わせて廃棄物の管理区分を見直すためにも、下段の内容を網羅した戦略的な分析を実現するための計画を策定する。

廃炉進捗に伴う対応	内容
放射能濃度による廃棄物管理への移行	<ul style="list-style-type: none"><li>• 全ての廃棄物について、下記を踏まえた放射能濃度管理への移行。<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 廃棄物毎の特性に応じた合理的な安全対策等の検討に資するデータ取得</li><li>✓ 処分・再利用に向けたデータ蓄積・管理（より幅広い放射性核種の濃度管理）</li></ul></li></ul>
安全で安定的な保管管理の実施	<ul style="list-style-type: none"><li>• 保管時の廃棄物の挙動評価、及び適切な安全対策を検討し、長期にわたり閉じ込めを維持できる保管方法の検討のための廃棄物の物理的・化学的特性の把握。</li></ul>
試料採取・分析の高難度化対応	<ul style="list-style-type: none"><li>• デブリ取り出しに伴う試料採取、分析難易度の高い試料の発生が予想されるため、対応できる技術、人材の整備の必要性。</li></ul>
体系的な試料採取・分析の実施	<ul style="list-style-type: none"><li>• 代表性に配慮した体系的な試料採取・分析の実施。廃棄物毎の特性を踏まえた性状把握。</li></ul>

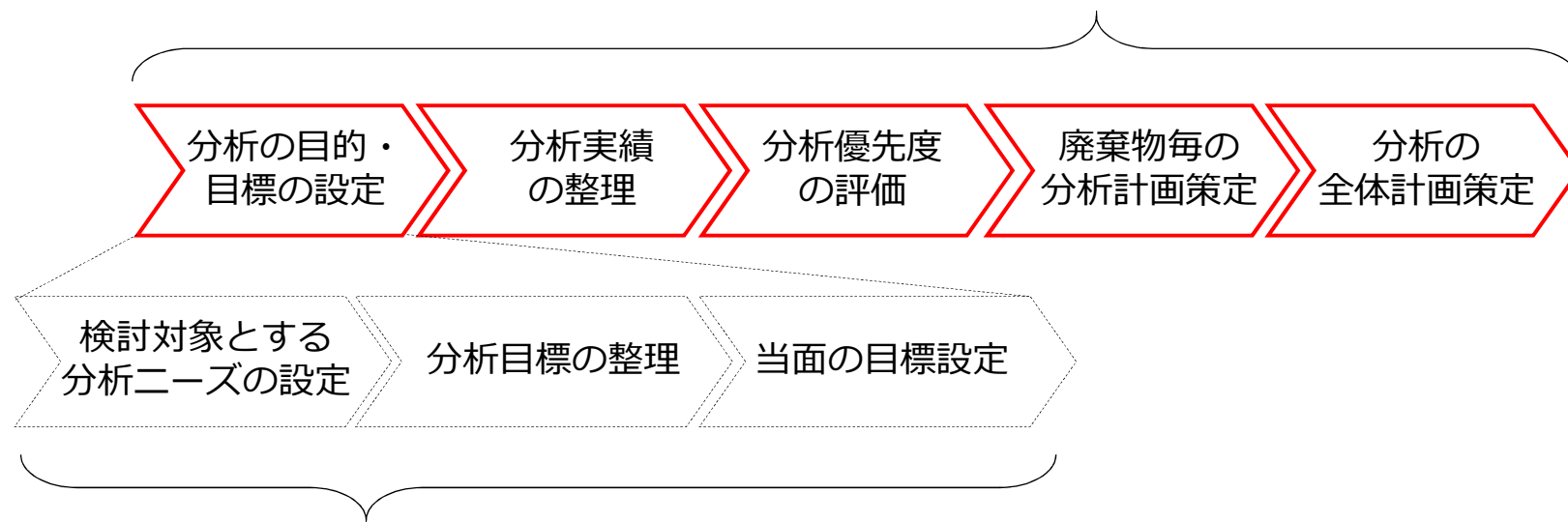
- 策定した分析計画に基づき、下記を実施する。

<ul style="list-style-type: none"><li>◎分析計画に基づく、必要な分析施設の確保（整備）、リソース確保</li><li>◎分析に係る技術課題の抽出、研究開発の実施</li><li>◎関連機関間の協力体制構築と役割分担の明確化</li></ul>
--

## ■ 今回の説明範囲

- ①分析計画策定の進め方
- ②分析の目的・目標設定の考え方
- ③今後の説明スケジュール

### ①分析計画策定の進め方



### ②分析の目的・目標設定の考え方

# 1.分析計画策定の進め方

## ■ 分析計画策定の進め方

- 分析計画策定のフローを右図に示す。
- 分析の目的・目標を明確にした上で、廃棄物毎に個々の特徴を踏まえた合理的な分析計画の検討を行う。
- 分析進捗状況や保管管理上のリスク等を踏まえ、廃棄物毎に分析の優先度を設定する。

## ■ 前提条件

- 分析項目

表 分析計画策定の対象とする分析項目

分類	分析項目例
放射線学的特性	• 放射能濃度, 放射エネルギー, 表面線量率等
物理的・化学的特性	• 材質, 水分量, 力学特性, 化学組成, pH, Eh, 不純物, 環境影響物質等

## • 考慮する分析施設（分析能力）

分析能力に係る検討（機能、容量等の確認）において想定する分析施設は下記とする。

- JAEA分析・研究施設第1棟
- 茨城地区分析施設
- 東電 既存分析施設
- 東電 総合分析施設（今後の設計に反映）

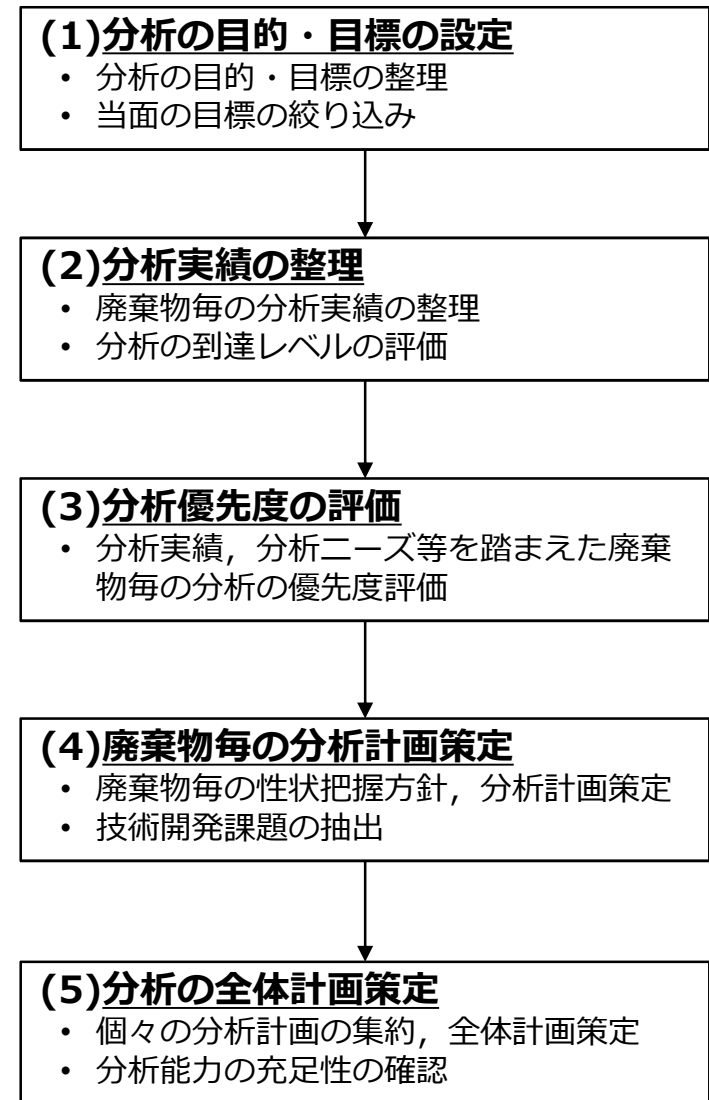


図 分析計画策定フロー

## 2.分析の目的・目標の設定

### ■ 分析の目的・目標設定の進め方

- 分析計画の策定にあたり、分析の目標を設定する（分析の目的と必要となる分析データの整理）。
- 検討手順を右図に示す。

### ■ 検討対象とする分析ニーズ

- 1F廃炉における主要な分析ニーズを下表に示す。
- 今回は、特に分析項目、分析数に対する要求水準が高い**処理処分、保管管理の2項目（廃棄物対策）**に注目する。
- 他の分析ニーズに関する計画は別途検討を進め、全体計画策定において調整・反映を行う。

#### 検討対象とする分析ニーズの設定

- 分析計画の具体化を図る分析ニーズの設定

#### 分析目標の整理

- 廃棄物対策の全体像（中長期プロセス）を整理
- 各プロセスで必要となる廃棄物性状に係るデータを整理

#### 当面の目標設定

- 当面の廃棄物対策において優先するプロセスを設定
- 優先するプロセスに対応した必要な廃棄物性状に係るデータを整理（当面の分析の目標設定）

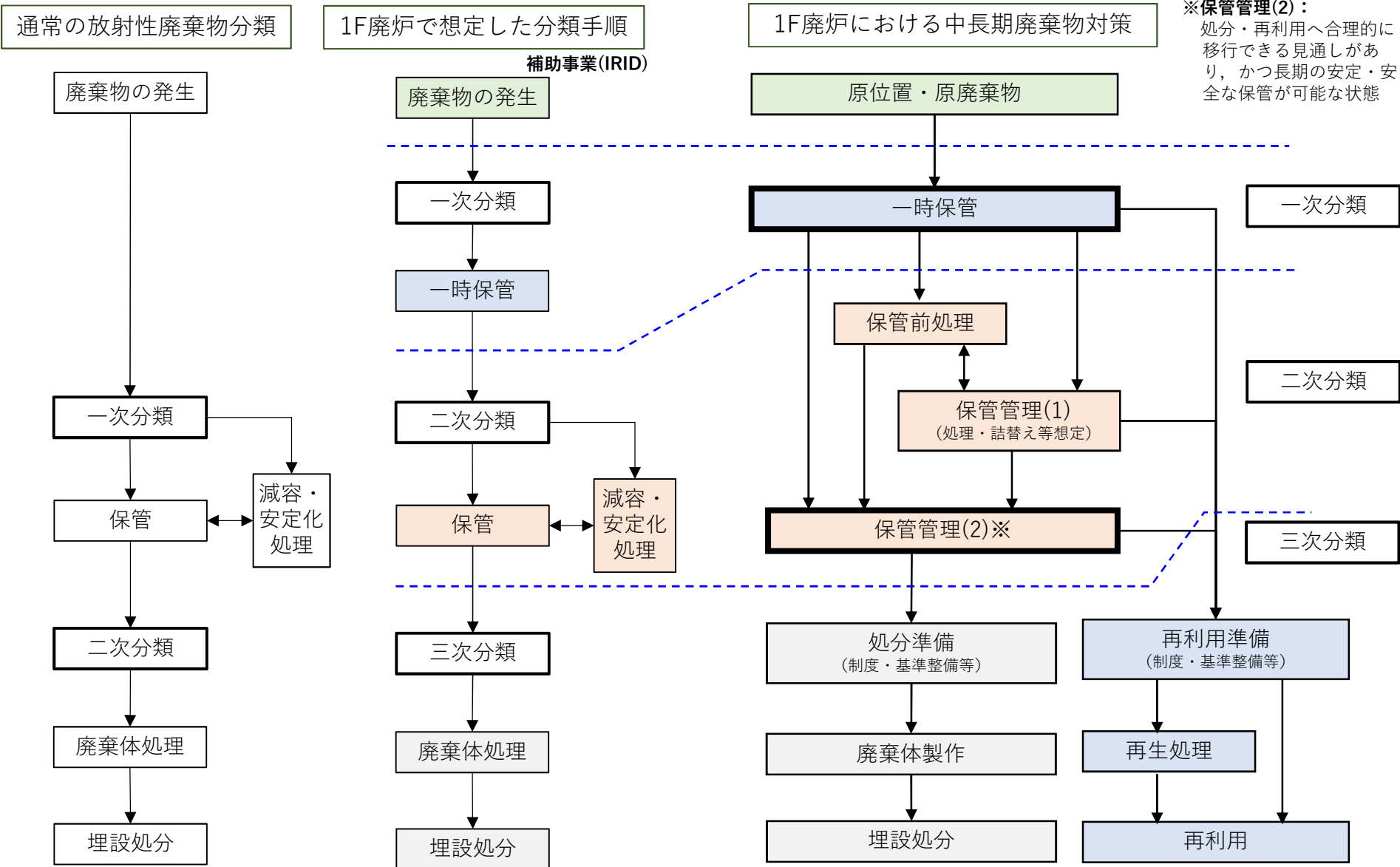
図 分析の目的・目標設定の進め方

表 主要な分析ニーズと今回の検討範囲

主要な分析ニーズ	今回の検討における扱い
廃棄物の処理処分方法検討に向けた性状把握に関する分析ニーズ※	<b>【検討対象】</b> ※再利用含む
固体廃棄物の保管管理の適正化に関する分析ニーズ	<b>【検討対象】</b>
燃料デブリの性状把握に関する分析ニーズ	<b>【別途検討】</b> ⇒ JAEA分析・研究施設第2棟で対応
事故調査に関する分析ニーズ	<b>【別途検討】</b> ⇒ 別途計画検討, 反映
設備設計に資する分析ニーズ（燃料デブリ等）	（上記に包含）
線量評価に資する分析ニーズ（バイオアッセイ）	<b>【別途検討】</b> ⇒ 構内に分析機能を構築予定
ALPS処理水に関する分析ニーズ	構内既存施設等で対応
海水や地下水等のモニタリングや保安管理を目的とする分析（ルチン分析）	構内既存施設等で対応

## 2.分析の目的・目標の設定

### ■ 性状把握における廃棄物分類と中長期廃棄物対策プロセス





## 2.分析の目的・目標の設定

### ■分析目標の整理

- 各プロセスで必要となる廃棄物性状に関する情報（分析目標）の概要を下表に整理する。

表 各プロセスで必要となる廃棄物性状に関する情報（分析目標）

レベル	プロセス	処分		再利用	
		放射線学的特性	物理的・化学的特性	放射線学的特性	物理的・化学的特性
一次分類	0 原位置・原廃棄物				
	1 一時保管				
二次分類	2 保管前処理 ↓ 保管管理(1) (処理・詰替え等想定)	①平常時・事故時シナリオにおける支配核種のインベントリ（最大放射能濃度・放射能量）	①施設設計に資する性状（材質，形状，質量，水分量他）		
	3 保管管理(2)				
三次分類	4 処分準備（制度・基準整備等） ↓ 再生処理 ↓ 再利用準備（制度・基準整備等）	②処分概念検討，基準策定等に資するインベントリ（解析的評価＋実測）	②埋設時挙動評価に資する性状（地下環境下） ②環境影響物質等	②用途検討，基準策定，検査方法構築等に資するインベントリ等	②環境影響物質等
	5 廃棄体製作 ↓ 埋設処分 再生処理 ↓ 再利用	①申請放射能量設定 ③廃棄確認対応（SFエビデンス等） ①施設確認対応（詳細設計用データ）	①処分施設設計条件 ③廃棄確認対応（制限物質等） ①施設確認対応（詳細設計用データ）	③検認	③検認

**凡例（使用目的）**

- ①設計・評価
- ②基準等の策定
- ③基準適合性確認

## 2.分析の目的・目標の設定

### ■ 当面の分析目標の設定

- 当面の廃棄物対策において優先するプロセスとして“保管管理(2)”、“再利用”を設定し、これらに必要な廃棄物性状に係る情報に対応する分析を当面の目標として設定した（下表）。
- 将来、保管において処分・再利用に移行できる状態を維持するため、廃棄物ストリーム※を構築して保管管理(2)の検討にフィードバックを図るものとする。よって、保管管理(2)の検討に処分準備の一部検討（廃棄物ストリーム構築）を含める。

表 当面の分析の目標範囲

廃棄物対策上の目標	レベル	プロセス	① 安全、安定した保管管理への移行		② 再利用	
			放射線学的特性	物理的・化学的特性	放射線学的特性	物理的・化学的特性
	0	原位置・原廃棄物				
	1	一時保管	③線量率	③材料種類	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>凡例（使用目的）</b>                      ①設計・評価                      ②基準等の策定                      ③基準適合性確認                       同左                 </div>	
	2	保管前処理 ↓ 保管管理(1) (処理・詰替え等想定)	①平常時・事故時シナリオにおける支配核種のインベントリ（最大放射能濃度・放射能量）	①施設設計に資する性状（材質、形状、質量、水分量他）		
<div style="border: 1px solid purple; padding: 5px;"> <b>保管管理(2)</b>                      ・処分・再利用までの安全、安定的な廃棄物の保管の実施                 </div>	3	保管管理(2)	①保管時挙動評価に資する性状（化学組成、力学特性、不純物他）	①保管時挙動評価に資する性状（化学組成、力学特性、不純物他）		
<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;">                     ↑ フィードバック  <b>廃棄物ストリーム※構築</b>                      ・廃棄体要件                      ・廃棄物処理方法等                 </div>	4 <small>当面の到達目標</small>	処分準備 (制度・基準整備等) ↓ 廃棄体製作 ↓ 埋設処分	②処分概念検討、基準策定等に資するインベントリ（解析の評価+実測）	②埋設時挙動評価に資する性状（地下環境下） ②環境影響物質等	②用途検討、基準策定、検査方法構築等に資するインベントリ等	②環境影響物質等
<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <b>再利用（一時保管→再利用）</b>                      ・保管対象とする廃棄物量の削減                 </div>	5	再生処理 ↓ 再利用	①申請放射能量設定 ③廃棄確認対応（SFエビデンス等） ①施設確認対応（詳細設計用データ）	①処分施設設計条件 ③廃棄確認対応（制限物質等） ①施設確認対（詳細設計用データ）	③検認	③検認

※廃棄物ストリーム：廃棄物の発生・保管から処理・処分までの一連の廃棄物の取り扱い

# 3.分析実績整理／優先度評価



## ■各廃棄物の分析優先度評価の方法

- ・ 廃棄物毎の分析実績，分析の到達レベル，分析優先度評価を下記形式（表）で整理を行う。

表 廃棄物毎の分析実績，分析優先度評価整理表のイメージ

廃棄物種類				分析実績										分析優先度							
No.	廃棄物種類 作業に伴い発生	構成/内訳	発生状況 /管理状況	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	放射線学的特性 放射能濃度 (Bq/g)	データ整備 ニーズ	保管負荷 (リスク・物量)	既存技術・制度 適合性	発生時期 ×: FY2032まで未発生	分析優先度 (最高3点)	分析に係る 技術開発課題 ○:重要課題	
																					0
1	テフリ取り出し/解体廃棄物 1号 (事故伊解体)																				
2	格納容器 (金属)		9																		
3	格納容器 (コンクリート)		9																		
2	高碑コンクリート																				
1	回収瓦礫 (コンクリート) 30mSv/h超		2																2	○	
2	回収瓦礫 (コンクリート) 5μ~30mSv/h		1→2																2	○	
3	回収瓦礫 (コンクリート) 5μSv/h未満		4																3	○	
3	水処理二次廃棄物																				
1	吸着塔① (キュリウム)																				
1	KURION		1→2																3		
2	SARRY		1→2																3		
3	SARRY-2		1→2																3		

**廃棄物種類**  
(種類, 内訳, 発生状況・管理状況)

**分析実績**

**分析の到達レベル**

- ・ 廃棄物対策プロセスを5段階に区分 (p.6のレベル0~4)
- ・ 廃棄物の発生・管理状況と分析の到達レベルを表示  
⇒早期実施ニーズ有無を判断

**分析優先度評価**

- ・ 分析優先度を最高3点で評価
- ・ 3~2点の廃棄物について、個別に分析計画検討(p.9)

参考資料①

参考資料②

参考資料③

参考資料④

# 4. 廃棄物毎の分析計画策定

表 廃棄物毎の分析計画策定（様式案）

廃棄物名称	分析優先度【X】																																	
<p><b>1. 分析ニーズ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分析の目的・目標の整理</li> <li>・ 分析データ整備ニーズ 等</li> </ul>	<p><b>4. 性状把握方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性状把握の基本方針</li> <li>・ 性状把握方針を踏まえた分析計画策定の考え方, 方針</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; background-color: #336633; color: white; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>性状把握方針</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「廃棄物に関する情報」に基づき、個々の特性を踏まえた性状把握方針（分析, 解析, 予備的安全評価の組み合わせ等）を設定する。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid red; background-color: red; color: white; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>分析計画・技術開発計画</b></p> </div> <p><b>5. 分析計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的分析計画案</li> <li>・ 具体的分析数は表右下欄に記載</li> </ul> <p><b>6. 技術課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試料採取, 分析, データ処理方法等に係る技術課題</li> <li>・ 技術課題に対する対応方針, 計画</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年度</th> <th style="width: 10%;">分析数</th> <th style="width: 80%;">内容・備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2023</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2024</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2025</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2026</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2027</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2028</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2029</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2030</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2031</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2032</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度	分析数	内容・備考	2023			2024			2025			2026			2027			2028			2029			2030			2031			2032		
年度		分析数	内容・備考																															
2023																																		
2024																																		
2025																																		
2026																																		
2027																																		
2028																																		
2029																																		
2030																																		
2031																																		
2032																																		
<p><b>2. 発生・管理状況／今後の計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の基礎情報</li> <li>・ 廃棄物の発生状況, 発生見込み</li> <li>・ 現在の保管管理状況</li> <li>・ 今後の処理計画, 保管管理計画 等</li> </ul>																																		
<p><b>3. 廃棄物性状に係る情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往の分析実績（放射学的特性, 物理的・化学的特性）</li> <li>・ 補助事業成果（解析的手法, 安全評価による注目核種等）等</li> </ul>																																		

廃棄物に関する情報

**性状把握方針**

「廃棄物に関する情報」に基づき、個々の特性を踏まえた性状把握方針（分析, 解析, 予備的安全評価の組み合わせ等）を設定する。

**分析計画・技術開発計画**

**10年間の分析数・分析内容を記載**

# 5.分析の全体計画策定

## ■ 分析の全体計画策定

- **廃棄物毎の分析計画を統合し、全体計画を策定する。** 策定した計画は、分析施設の機能・容量等の充足性の確認・課題抽出、今後整備予定の分析施設の設計に反映する。また、分析員の確保、計画・評価ができる分析技術者の育成・配置等の人材確保計画の検討にも資する。
- **分析優先度に応じて、優先枠と調整枠を割り当てる。** 分析計画は最新の知見に基づき適宜更新を行うものであり、分析計画更新や突発的な分析ニーズ発生に対して、**調整枠をバッファーとして活用し、** 確実に分析を進める。

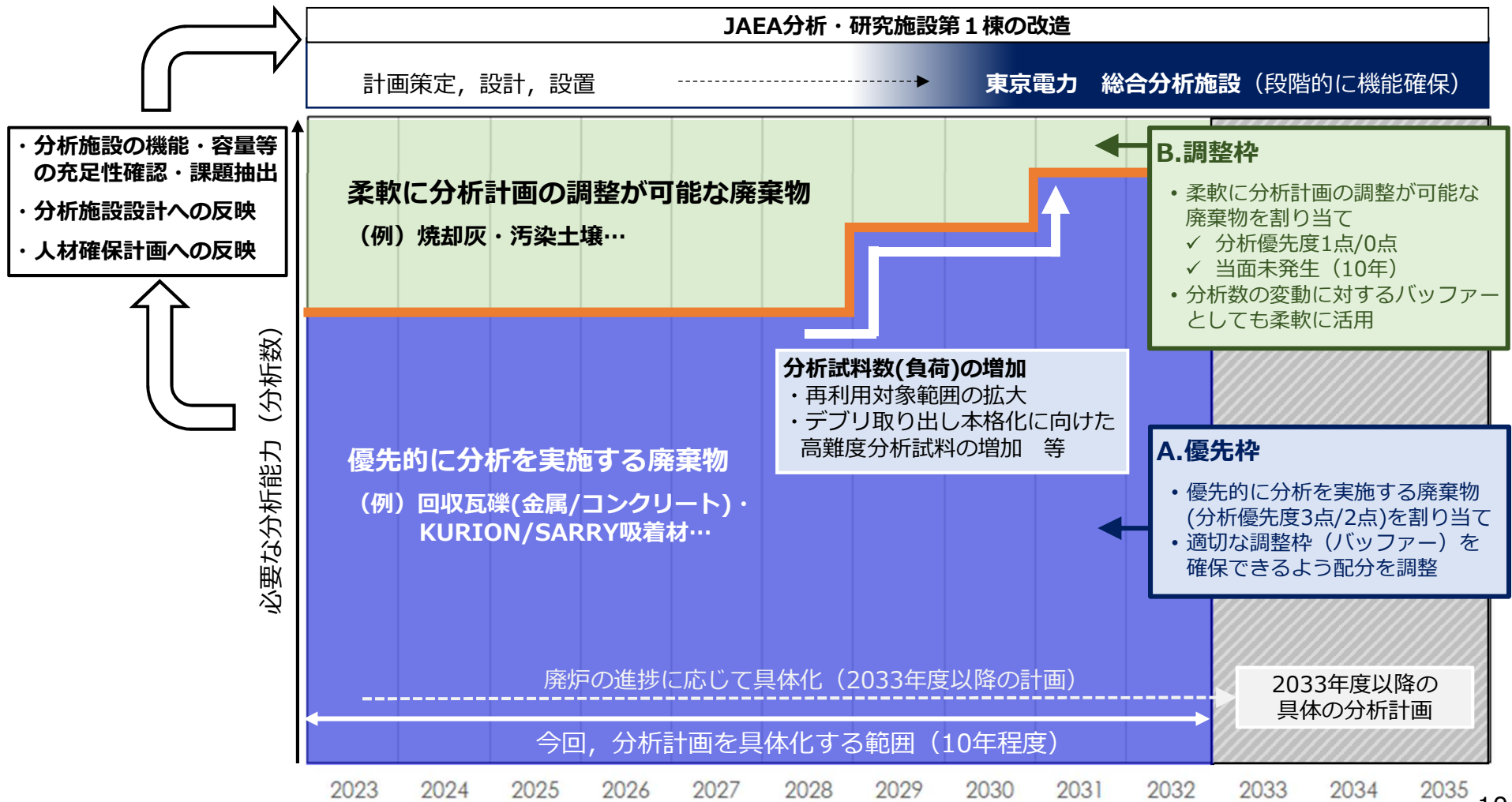


図 分析の全体計画策定の考え方

- 分析計画を策定し、今後の分析能力確保、リソース確保、課題対応等の検討に資する。
- 分析計画の策定にあたっては、「保管管理」「再利用」に着目し、当面の分析の目標設定を行う。
- 廃棄物毎に分析実績、分析の到達レベル、分析の優先度を評価し、分析優先度の高い廃棄物から性状把握方針、分析計画の具体化を図る。
- 廃棄物毎の分析計画を統合し、全体計画を策定する。年度内を目標に検討を進める。

## 6. 今後の説明スケジュール

回	内容	時期
今回 報告	<ul style="list-style-type: none"><li>分析計画策定の進め方</li><li>目的・目標設定の考え方</li></ul>	2022年9月
次回 以降	<ul style="list-style-type: none"><li>分析実績整理の結果</li><li>分析優先度の評価結果</li><li>廃棄物毎の性状把握方針・分析計画</li><li>全体分析計画の提示（上記成果を統合した10年間の分析計画）</li><li>分析能力確保の見通し，計画</li></ul>	2022年度内

※全体のブラッシュアップは、一連の検討を通じて継続して実施する。

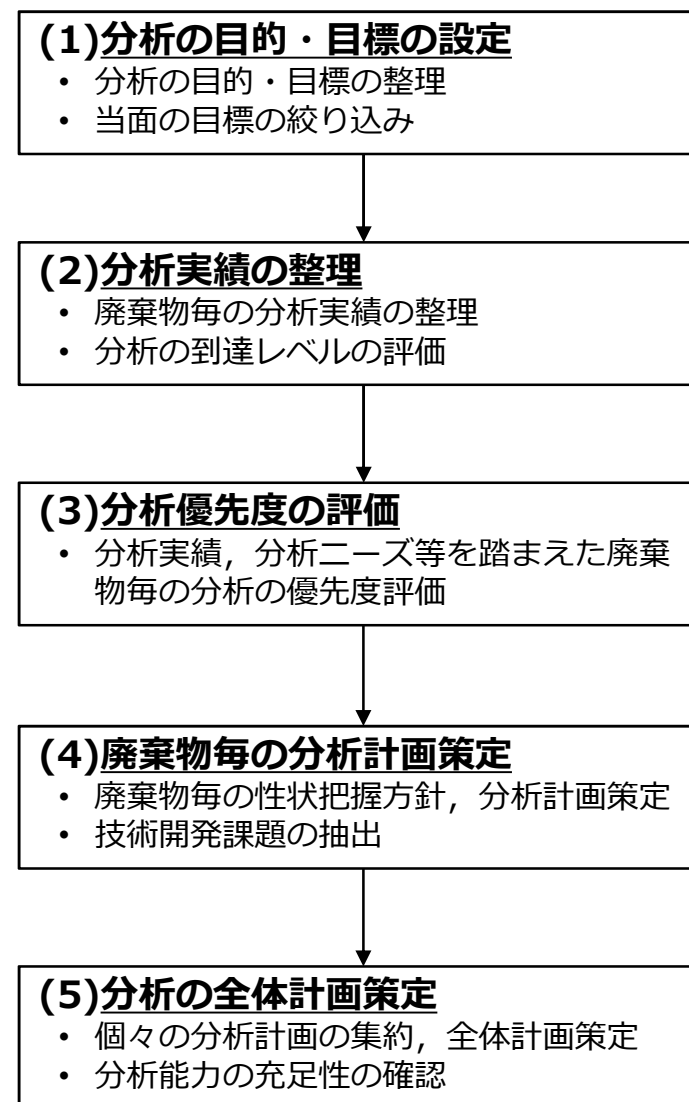


図 分析計画策定フロー

以上



# 参考資料①：分析実績整理（廃棄物種類）

## ■ 廃棄物種類（種類、内訳、発生状況・管理状況）

- 対象とする廃棄物種類、内訳（構成）、現在の発生・管理状況、発生時期等の情報を整理する。
- 廃棄物種類は、補助事業（IRID）の設定をベースに、分析データ整理の観点から再構築した（仮設定）。

表 廃棄物種類一覧（仮：見直し予定）

No.	廃棄物種類	No.	廃棄物種類
1	1号（事故炉解体）	2	1 瓦礫類等
1	1 原子炉領域	1	1 瓦礫金属
1	1 圧力容器	1	1 回収瓦礫（金属）
2	2 格納容器（金属）	2	2 使用済み容器/タンク等
3	3 格納容器（コンクリート）	2	2 瓦礫コンクリート
2	2 建屋金属	1	1 回収瓦礫（コンクリート） 30mSv/h超
1	1 R/B	2	2 回収瓦礫（コンクリート） 5μ~30mSv/h
2	2 T/B	3	3 回収瓦礫（コンクリート） 5μSv/h未満
3	3 建屋コンクリート	3	3 可燃物（焼却灰）
1	1 R/B	1	1 既設焼却炉分
2	2 T/B	2	2 増設焼却炉分
4	4 その他廃棄物	4	4 汚染土壌
1	1 その他	1	1 汚染土壌（広域）
2	2 2号（事故炉解体）	2	2 汚染土壌
1	1 原子炉領域	3	3 礫・砕石
1	1 圧力容器	4	4 アスファルト
2	2 格納容器（金属）	3	3 水処理二次廃棄物
3	3 格納容器（コンクリート）	1	1 吸着塔①（キユリザリ）
2	2 建屋金属	1	1 KURITON
1	1 R/B		
2	2 T/B		
3	3 建屋コンクリート		
1	1 R/B		
2	2 T/B		
4	4 その他廃棄物		
1	1 その他		
3	3 3号（事故炉解体）		
1	1 原子炉領域		
1	1 圧力容器		
2	2 格納容器（金属）		
3	3 格納容器（コンクリート）		
2	2 建屋金属		
1	1 R/B		
2	2 T/B		
3	3 建屋コンクリート		
1	1 R/B		
2	2 T/B		
4	4 その他廃棄物		
1	1 その他		
4	4 その他廃棄物（事故炉解体）		
1	1 デブリ回収廃棄物		
2	2 廃炉/解体二次廃棄物		
1	1 デブリ回収廃棄物（二次廃棄物）		
2	2 使用済み機材・設備等		
5	5 4-6号機（事故炉以外）		
1	1 4号機解体廃棄物		
1	1 原子炉領域		
2	2 建屋金属		
3	3 建屋コンクリート		
4	4 その他		
2	2 5.6号機解体廃棄物		
1	1 原子炉領域		
2	2 建屋金属		
3	3 建屋コンクリート		
4	4 その他		

・ 廃棄物種類は、補助事業（IRID）で設定した廃棄物区分をベースに、分析データ整理の観点から再構築したもの  
 ・ 作業を進めながら更新予定

## 廃棄物種類

No.	廃棄物種類	構成/内訳	発生状況/管理状況	発生年度				発生時期				発生時期 不明	発生時期 不明	発生時期 不明	発生時期 不明	
				2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030					
1	1号（事故炉解体）															
2	2号（事故炉解体）															
3	3号（事故炉解体）															
4	4-6号機（事故炉以外）															

## 各廃棄物の発生状況/管理状況

- 9：未発生（2033年度以降発生/発生時期未定）
- 0：未発生（2032年度（今後10年）までに発生見込み）
- 1：一時保管
- 2：保管前処理/保管管理（1）
- 3：保管管理（2）
- 4：処分・再利用

# 参考資料②：分析実績整理（分析実績）

## ■ 分析実績の整理

- 各廃棄物の分析の実績として、下表の情報を整理する。
- 各廃棄物の分析の実績を踏まえ、分析の到達レベルを整理する。到達レベルの整理方法は次項参照。

No.	試料採取位置	廃棄物種別	発生時期 /管理状況	放射線学的特性 特性	物理的・化学的 特性	分析実績								分析到達 レベル	備考		
						1	2	3	4	5	6	7	8			9	10
1	1F (東2F炉心)	汚染土															
2	2F (東2F炉心)	汚染土															
3	3F (東2F炉心)	汚染土															
4	4F (東2F炉心)	汚染土															
5	5F (東2F炉心)	汚染土															
6	6F (東2F炉心)	汚染土															
7	7F (東2F炉心)	汚染土															
8	8F (東2F炉心)	汚染土															
9	9F (東2F炉心)	汚染土															
10	10F (東2F炉心)	汚染土															
11	11F (東2F炉心)	汚染土															
12	12F (東2F炉心)	汚染土															
13	13F (東2F炉心)	汚染土															
14	14F (東2F炉心)	汚染土															
15	15F (東2F炉心)	汚染土															
16	16F (東2F炉心)	汚染土															
17	17F (東2F炉心)	汚染土															
18	18F (東2F炉心)	汚染土															
19	19F (東2F炉心)	汚染土															
20	20F (東2F炉心)	汚染土															

分析実績/到達レベル

表 分析実績に関する整理項目

項目			記載事項
試料採取			<ul style="list-style-type: none"> <li>試料採取の実績/計画/保管状況等の情報</li> </ul>
分析等実績	放射線学的特性	表面線量	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面線量, Cs-137濃度</li> </ul>
		放射能濃度 (保管管理)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最大値決定のための放射能濃度設定に係る分析データ取得</li> </ul>
		放射能濃度 (処理処分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>解析的手法反映を目的とした分析データ取得 (汚染/移行効率, フィッティング用データ等)</li> </ul>
	物理的・化学的 特性	設計用基礎特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料種類, 水分量等</li> </ul>
物理的・化学的挙動評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>長期挙動評価に用いる特性データ (力学特性, 空隙構造, 化学組成, pH, Eh, 不純物等)</li> </ul>	
環境影響物質等		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境影響物質, その他制限物質の有無・量</li> </ul>	
その他取得データ			<ul style="list-style-type: none"> <li>上記以外の関連データ等</li> </ul>
分析の到達レベル (参考資料③で説明)			<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線学的特性, 物理的・化学的 特性の分析の到達レベルを評価 (5段階評価, 「4」がゴール)</li> <li>現状の管理・発生状況と到達レベルの比較を実施 (早期データ拡充が望ましい廃棄物を抽出)</li> </ul>

# 参考資料③：分析実績整理（分析の到達レベル）

## ■各廃棄物の分析の到達レベル

- ・ 廃棄物毎の発生状況・管理状況，及び分析の実施状況をp.6に示した目標の段階（プロセス）と対応させ，下記の形で整理する。
- ・ ■と□が重複しない廃棄物は，分析の優先度を上げる。

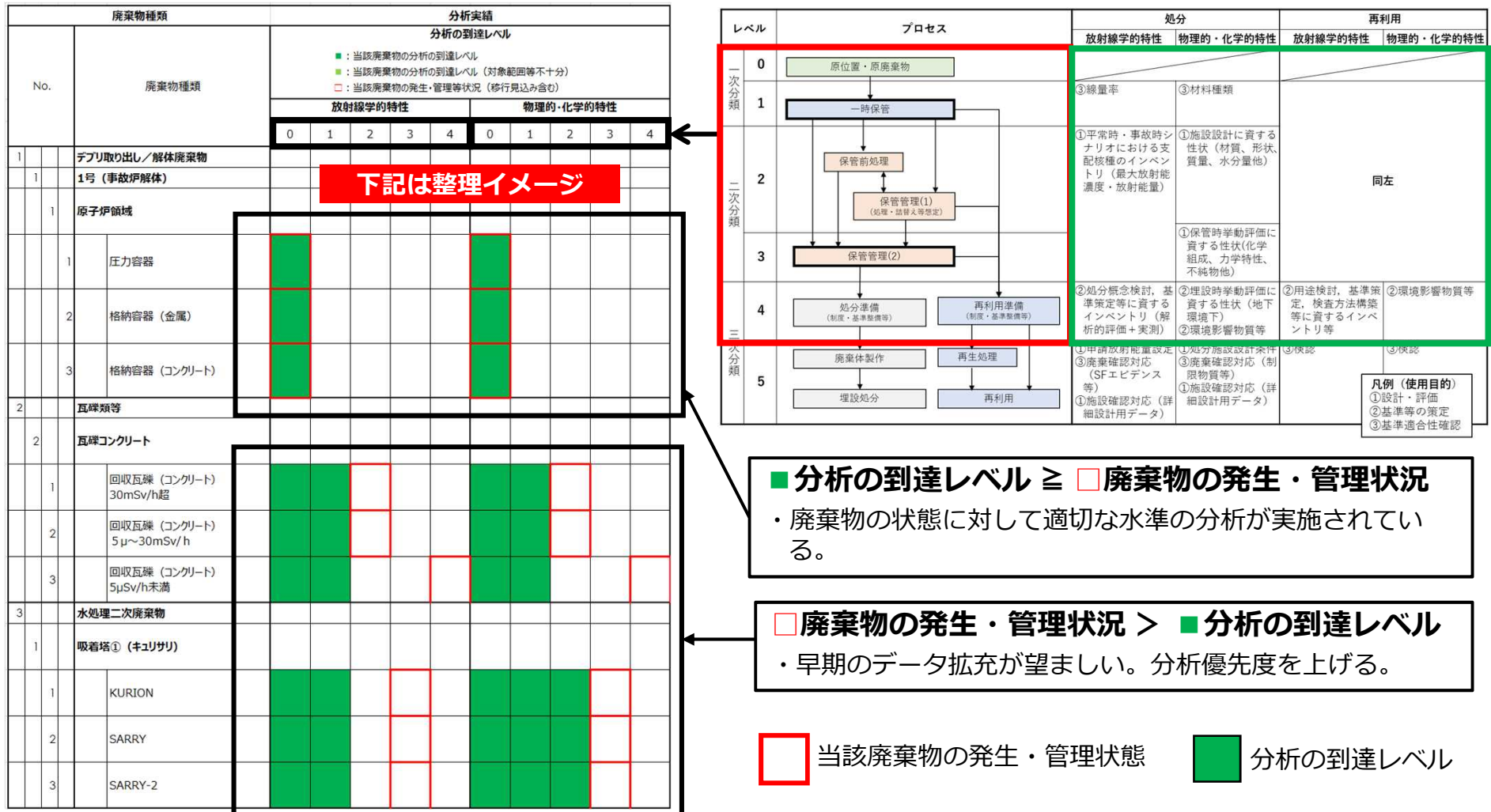


図 分析の到達レベルの整理方法

# 参考資料④：分析優先度評価

## ■ 分析優先度の評価方法

- 分析優先度の評価方法・評価指標を下表に示す。
- 分析優先度は、下表 i ~ iii の指標により0~3点の4段階で評価を行う
- iv 発生タイミングについて、2032年度までに発生見込みのない廃棄物は、分析優先度とは無関係に優先枠から外す。
- 分析に係る技術課題の整理を実施する。分析に係る重要な技術開発課題を有する場合には、技術開発計画も含めて計画を策定する。

分析優先度評価

表 分析優先度の評価方法、評価指標

評価項目		優先度設定の考え方	対象	点数（最大3点）
i	データ整備二ーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の発生管理状況に対して分析データ取得が遅れている廃棄物の分析優先度を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考資料④の評価において、廃棄物の発生・管理状況 &gt; 分析の到達レベルとなった廃棄物</li> </ul>	優先度評価【+1】
ii	保管負荷（リスク・物量） 廃棄物ストリーム検討の必要性高	<ul style="list-style-type: none"> <li>保管時の負荷が高い廃棄物は、廃棄物ストリームを整備し、安定化・減容等の処理方法策定、保管時対策を具体化を急ぐ観点から分析優先度を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク高（高線量、高濃度、高流動性、飛散性、化学的不安定さ等）</li> <li>保管時の負担大（物量が膨大な廃棄物）</li> </ul>	優先度評価【+1】
iii	既存技術・制度の適合性 制度整備・技術開発の必要性高	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存廃棄物と類似性が低いものは、制度整備、技術開発が必要になる可能性がある。</li> <li>議論の骨格となる廃棄物ストリーム構築、課題抽出を図るため、分析優先度を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の廃棄物等と類似性が低い廃棄物（インベントリ・材料等。1F独自性の強い廃棄物。）</li> </ul>	優先度評価【+1】
iv	発生タイミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>2032年度まで発生見込みのない廃棄物の分析の緊急性は低いと判断。分析優先度評価の点数に抛らず優先枠から除外する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生状況・管理状況が「9:未発生（2033年度以降発生/発生時期未定）である廃棄物</li> </ul>	点数に抛らず【優先枠除外】
分析に係る技術開発課題有無		<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物毎に分析に係る技術課題の有無について評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析に係る重要な技術開発課題を有する廃棄物</li> </ul>	技術開発と合わせて計画策定



必要な分析データ

**1 各施設の設計・評価** 実測値（最大を推定）

- 実測値に基づき、施設設計において想定する放射能濃度・放射エネルギーの最大値を設定する。基準適合性は記録確認で対応可。
- 解析的手法は開発段階であることから、当面は補助的な位置付けとする。
- 再利用については実廃棄物に関するデータ蓄積が重要。基準上限付近の廃棄物の実測データの蓄積を進める。

**2 基準等検討／廃棄物ストリーム検討（処分準備）**

- 解析的手法の適用を想定（実測も併用）
- PDCAを回しながら信頼性向上を図っていく（下記のイメージ）

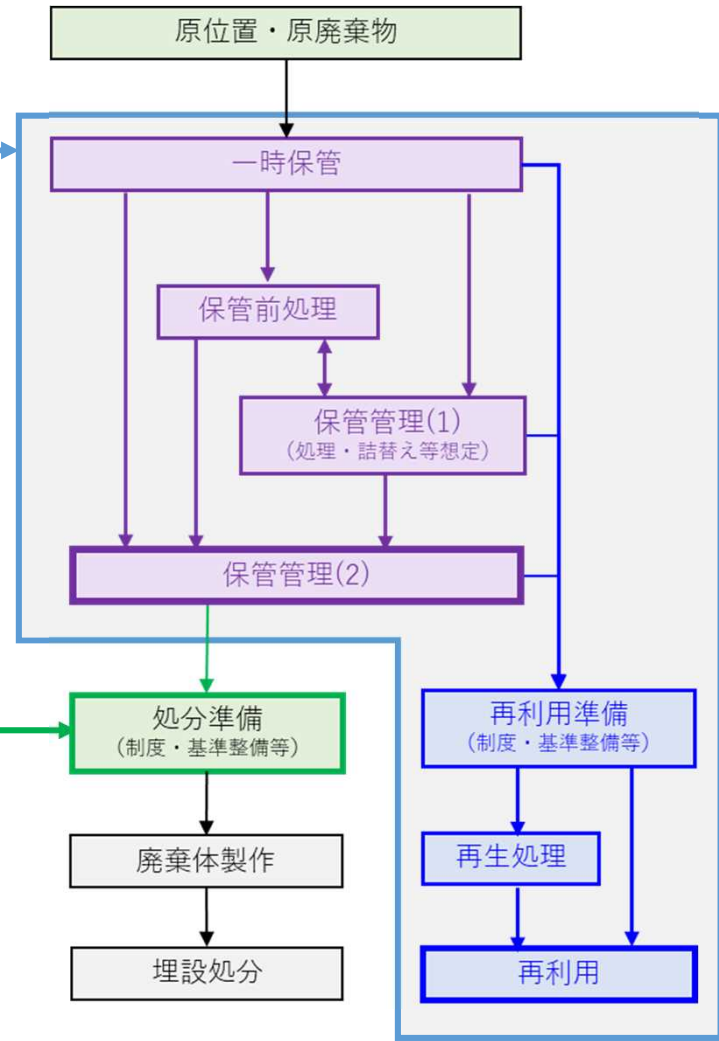
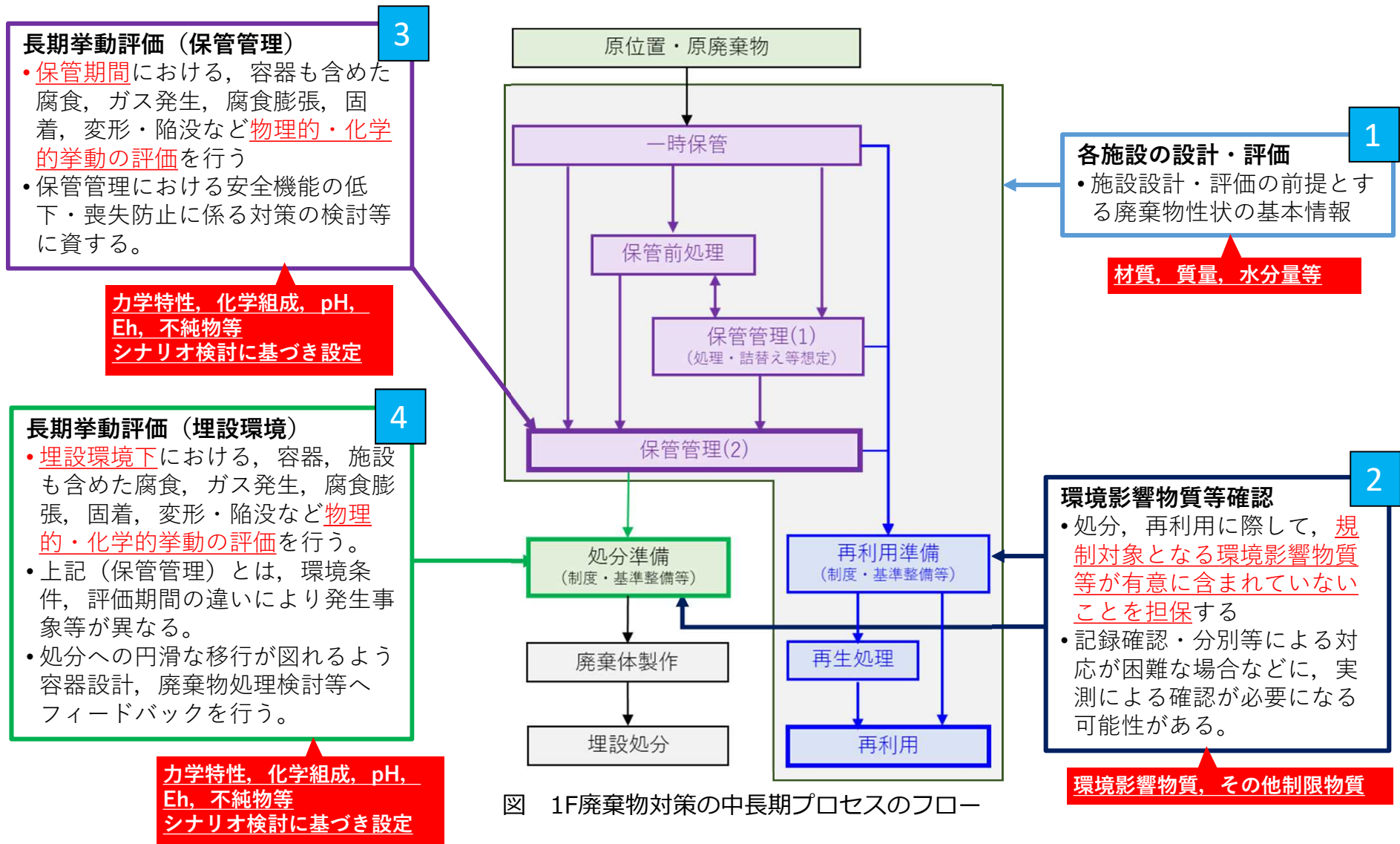


図 1F廃棄物対策の中長期プロセスのフロー

# 参考資料⑥：必要な分析データ例（物理的・化学的特性） TEPCO



# 東京電力福島第一原子力発電所の廃棄物分析について

令和4年9月12日  
経済産業省 資源エネルギー庁

## 1. 廃棄物分析に関する基本的考え方

- 事故炉である福島第一原子力発電所(以下、1F と称す)の廃棄物分析については、
  - ✓ 通常炉とは異なる『多様な性状の大量の廃棄物』が存在し、これらの『保管・管理』、その後の『処理・処分』の検討には、含まれる放射性核種とその量を適切に把握することが必要である。
  - ✓ また、今後の廃炉の進捗に伴い、分析が必要となる試料の種類及び数量が増加していくため、必要となる分析施設、分析手法及び分析人材の確保を計画的に進めることが必要である。
- 廃棄物対策の基本的な考え方については、中長期ロードマップにおいて、『2017年9月に決定した以下の「基本的考え方」に基づき、関係機関が各々の役割に基づきつつ、国の総力を挙げて取り組む。これを実施するため、固体廃棄物の性状把握から処理・処分に至るまで一体となった対策の専門的検討は、機構を中心に進める』とされている。これを踏まえ、分析に関しては、東京電力、NDF、JAEA、IRID 等関係機関の連携の下、以下の事項を進めてきている。
  - 採取した試料について、既存の分析施設を活用した性状把握。
  - 廃棄物の性状把握、処理、処分までの管理全体を俯瞰した上で、今後必要となる技術の研究開発の効率的実施。
  - 固体廃棄物の管理全体に関連する施設の整備や人材の育成を含めた継続的な運用体制の構築。
- 中長期ロードマップに示している第3期以降における分析の本格化を見据え、東京電力に対しては、今後必要となる分析技術、総合分析施設及び人材(分析技術者・分析作業者等)の内容を明確化した上で、それらの確保を適切に進めるよう求めている。

## 2. 中長期ロードマップに基づき実施している当庁の取組

### (1) JAEA 大熊分析・研究施設の整備・運営支援

- ✓ 1F で発生する低中線量の固体廃棄物の性状把握・分析手法開発、及び ALPS 処理水の第三者分析を行うための施設第1棟を整備(本年6月に竣工)。
- ✓ 1F で発生する燃料デブリ、核燃料物質を含む試料、高線量廃棄物の分析・手法開発を行うための施設第2棟の設置準備中。

## (2)「廃炉・汚染水・処理水対策事業費補助金」による1F 廃棄物・燃料デブリの性状把握への取組

中長期ロードマップに示している第3期には『廃棄物の性状把握』や『燃料デブリ取り出し』の分析が本格的に開始する見込み。これに向けて研究開発を実施。

### ① 固体廃棄物の処理・処分に関する研究開発

- ✓ 1F で採取した試料を茨城地区の複数施設にて分析している。分析が難しく、その手法が確立していなかった放射性核種について、分析方法を開発し、適用を進めた。
- ✓ 1F 廃棄物は物量が膨大であることから、従来の手法による分析の実施には相当の手間と時間を要する。効率的な分析が必要となるため、『簡易・迅速化された効率的な分析手法』等を開発。分析マニュアルを整備するとともに『新しい分析手法の標準化』も実施。
- ✓ 廃棄物の処理・処分方法の検討に向けた性状把握のあり方について検討を実施中。

### ② 燃料デブリに関する研究開発

- ✓ 試験的取り出しにより得られる燃料デブリの分析に備え、模擬デブリや1F サンプル（内部調査等で得られた堆積物など）を用いた分析技術の開発とその結果に基づく性状の推定を実施中。
- ✓ 国内の分析施設が有する分析手法、不確かさなどを明らかにするため、共有の模擬デブリ試料を各施設で分析し、その結果を比較、検討を実施中。
- ✓ OECD/NEA の FACE プロジェクトで予定されている国際ラウンドロビン（デブリの共同分析）についても、来年度以降の当庁補助事業で実施予定。

## (3) 分析人材の育成・確保に向けた新たな取組

- ✓ 新たに設立される福島国際研究教育機構における廃炉関連人材の育成事業の立ち上げに向け、本年9月より、分析作業者の育成を念頭に置いた「放射能分析の人材育成カリキュラム作成」を実施予定。
- ✓ 同カリキュラムを用いた育成事業を来年度から実施すべく準備中。

## 3. 今後の対応について

廃棄物分析を含む1F 廃炉に向けた取組は、東京電力の責任において実施していくべきもの。他方、東京電力による分析体制確保が確実にいえるよう、各機関による課題解決に向けた取組を強化していくことが必要である。

当庁として、当面の施設整備、分析技術開発、人材育成の取組を着実に進めるとともに、追加的に必要な取組を具体化し、東京電力の指導、関係者間の連携強化を図っていく。



# 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2022.8.31時点)

分類	保管場所	保管容量※1	保管量※1	前回集約からの増減※2 2022.7.31 - 2022.8.31	エリア 占有率	保管量/保管容量※1 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	A	13,800 m <sup>3</sup>	2,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	16%	238,000 / 266,300 (89%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な増減理由</li> <li>港湾関連工事（エリアC）</li> <li>エリア整理のための移動（エリアP1）</li> <li>フランジタンク除染作業（エリアAA）</li> <li>1～4号機建屋周辺関連工事（エリアe）</li> </ul>
		B	5,300 m <sup>3</sup>	5,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
		C	67,000 m <sup>3</sup>	66,500 m <sup>3</sup>	+200 m <sup>3</sup>	99%		
		F 2	6,400 m <sup>3</sup>	6,400 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	99%		
		J	6,300 m <sup>3</sup>	6,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	99%		
		N	9,700 m <sup>3</sup>	9,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	99%		
		O	44,100 m <sup>3</sup>	44,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
		P 1	62,700 m <sup>3</sup>	62,300 m <sup>3</sup>	-200 m <sup>3</sup>	99%		
		U	800 m <sup>3</sup>	700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
		V	6,000 m <sup>3</sup>	6,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
		AA	36,400 m <sup>3</sup>	21,700 m <sup>3</sup>	+200 m <sup>3</sup>	60%		
		d	1,200 m <sup>3</sup>	1,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
		e	6,700 m <sup>3</sup>	5,900 m <sup>3</sup>	+400 m <sup>3</sup>	89%		
		D	2,700 m <sup>3</sup>	2,600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	97%		
		E 1	15,400 m <sup>3</sup>	14,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	95%		
瓦礫類	シート養生 (0.1～1mSv/h)	P 2	6,700 m <sup>3</sup>	5,800 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	87%	47,700 / 50,700 (94%)	
		W	11,600 m <sup>3</sup>	10,500 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	91%		
		X	7,900 m <sup>3</sup>	7,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	97%		
		m	3,100 m <sup>3</sup>	3,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	99%		
		n	3,300 m <sup>3</sup>	3,300 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
		L	16,000 m <sup>3</sup>	16,000 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	100%		
瓦礫類	覆土式一時保管施設、容器 (1～30mSv/h)	F 2※3	1,200 m <sup>3</sup>	600 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	51%	16,800 / 17,900 (94%)	
		F 1	700 m <sup>3</sup>	200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	25%		
		固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫※3	39,600 m <sup>3</sup>	28,000 m <sup>3</sup>	微減 m <sup>3</sup>		
合計(ガレキ)		374,400 m <sup>3</sup>	330,400 m <sup>3</sup>	+500 m <sup>3</sup>	88%			
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	40,000 m <sup>3</sup>	31,300 m <sup>3</sup>	微増 m <sup>3</sup>	78%	92,100 / 134,000 (69%)	
		H	43,000 m <sup>3</sup>	31,700 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	74%		
		M	45,000 m <sup>3</sup>	27,100 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	60%		
		V	6,000 m <sup>3</sup>	2,100 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	34%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	29,700 m <sup>3</sup>	26,200 m <sup>3</sup>	0 m <sup>3</sup>	88%	37,300 / 41,600 (90%)	
合計(伐採木)		175,600 m <sup>3</sup>	129,400 m <sup>3</sup>	+100 m <sup>3</sup>	74%			
保護衣	屋外集積		52,500 m <sup>3</sup>	27,700 m <sup>3</sup>	-2,700 m <sup>3</sup>	53%	27,700 / 52,500 (53%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済保護衣等焼却量： 11,020 t（2022年8月末累積）</li> <li>焼却灰・プラスト材のドラム缶相当数： 3,115 本（2022年8月末累積）</li> <li>焼却灰は固体廃棄物貯蔵庫9棟2階に放射性廃棄物として保管</li> </ul>
		合計(使用済保護衣等)		52,500 m <sup>3</sup>	27,700 m <sup>3</sup>	-2,700 m <sup>3</sup>	53%	

※1 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある

※2 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは50m<sup>3</sup>未満の増減を示す

※3 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む

# 仮設集積の管理状況(2022.8.31時点)

分類	場所	保管容量 <sup>※1</sup>		保管量 <sup>※1</sup>		前回集約からの増減 <sup>※2</sup> 2022.7.31 - 2022.8.31		エリア 占有率	保管量/保管容量 <sup>※1</sup> (割合)	トピックス
仮設集積	①	3,000	m <sup>3</sup>	2,700	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	90%	50,700 / 62,600 (81%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>点検等の作業が錯綜し、一時保管エリアへの瓦礫類の受入が停滞。結果、仮設集積の増加、長期化に至った</li> <li>このような状況を改善し、廃棄物管理の適正化を図るため、2022年3月までに工事主管Gの分別やコンテナ収納を目的としない「一時保管待ち」の仮設集積を解消し、固体廃棄物Gの仮設集積に集約する作業を完了</li> <li>合わせて、2022年度より、工事主管Gが設置する仮設集積は本来の目的である分別やコンテナ収納作業等に限定する旨をルール化</li> <li>固体廃棄物Gの「一時保管待ち」の仮設集積については、2022年度中に一時保管エリアとして設定する等により解消する計画</li> </ul>
	②	3,000	m <sup>3</sup>	3,000	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	100%		
	③	2,000	m <sup>3</sup>	2,000	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	98%		
	④	7,700	m <sup>3</sup>	5,400	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	71%		
	⑤	14,000	m <sup>3</sup>	12,300	m <sup>3</sup>	+800	m <sup>3</sup>	88%		
	⑥									
	⑦									
	⑧	4,500	m <sup>3</sup>	3,600	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	79%		
	⑨									
	⑩									
	⑪									
	⑫									
	⑬									
	⑭	2,200	m <sup>3</sup>	2,200	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	100%		
	⑮	2,000	m <sup>3</sup>	1,900	m <sup>3</sup>	-100	m <sup>3</sup>	94%		
	⑯	3,600	m <sup>3</sup>	2,600	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	72%		
	⑰									
	⑱	20,700	m <sup>3</sup>	15,100	m <sup>3</sup>	+2,100	m <sup>3</sup>	73%		

※1 端数処理で100m<sup>3</sup>未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある

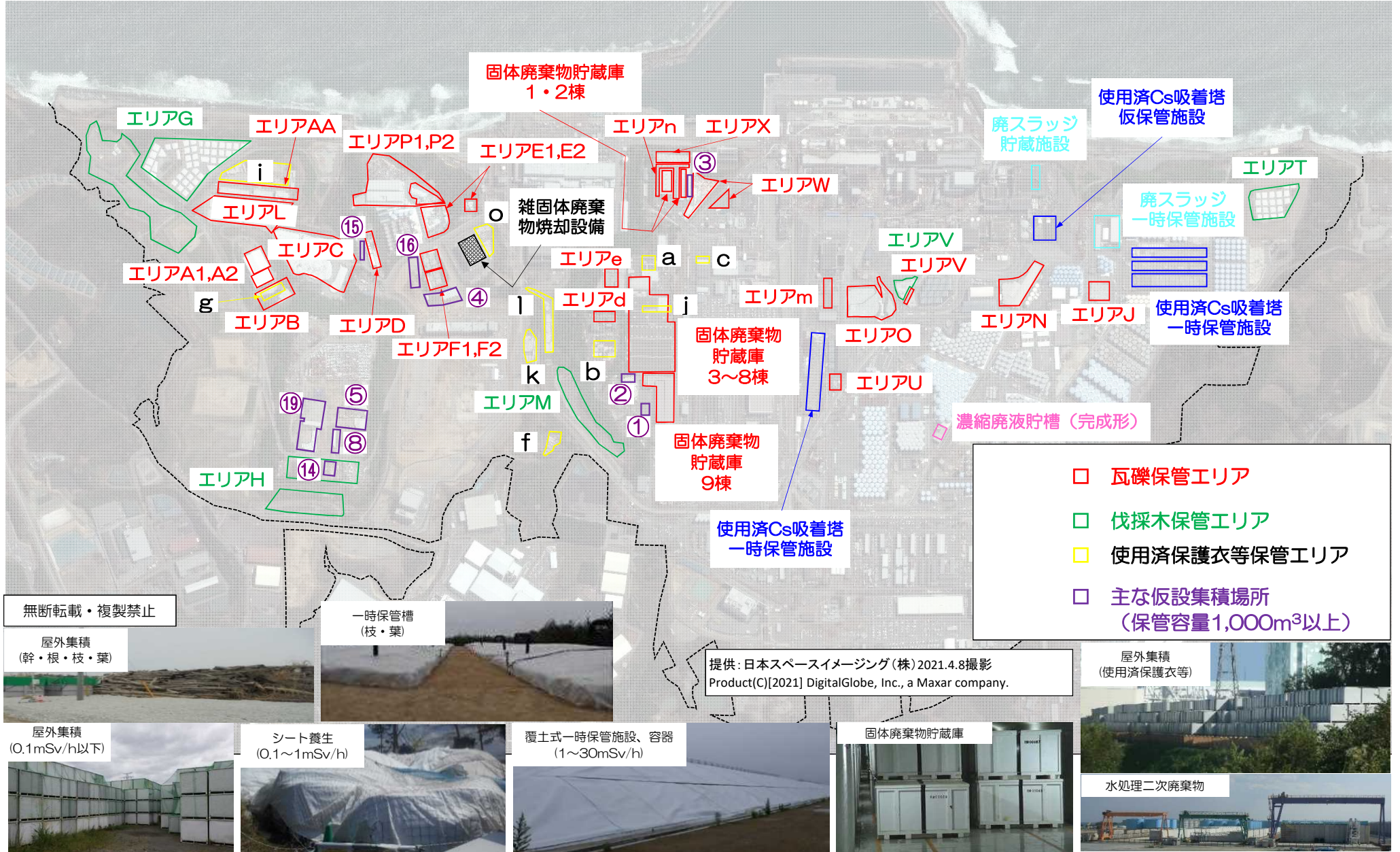
※2 100m<sup>3</sup>未満を端数処理しており、微増・微減とは50m<sup>3</sup>未満の増減を示す

# 水処理二次廃棄物の管理状況(2022.9.1時点)

分類	保管場所	種類	保管量		前回集約からの増減 2022.8.4 - 2022.9.1		保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	779	本	0	本	5,417 / 6,372 (85%)		
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	254	本	0	本			
		第三セシウム吸着装置使用済ベッセル	13	本	0	本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,989	基	+3			基
			増設	2,053	基	+12			基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	91	本	0			本
		多核種除去設備処理カラム	既設	17	塔	0			塔
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		221	本	0	本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	492	m <sup>3</sup>	+50	m <sup>3</sup>	492 / 700 (70%)	・造粒固化体貯槽(D)周辺の除染作業を実施中		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,380	m <sup>3</sup>	0	m <sup>3</sup>	9,380 / 10,300 (91%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内(現場パトロール異常なし)</li> <li>水位計0%以上の保管量： 9,280 m<sup>3</sup></li> <li>タンク底部～水位計の保管量(DS)： 約 100 m<sup>3</sup></li> </ul>		

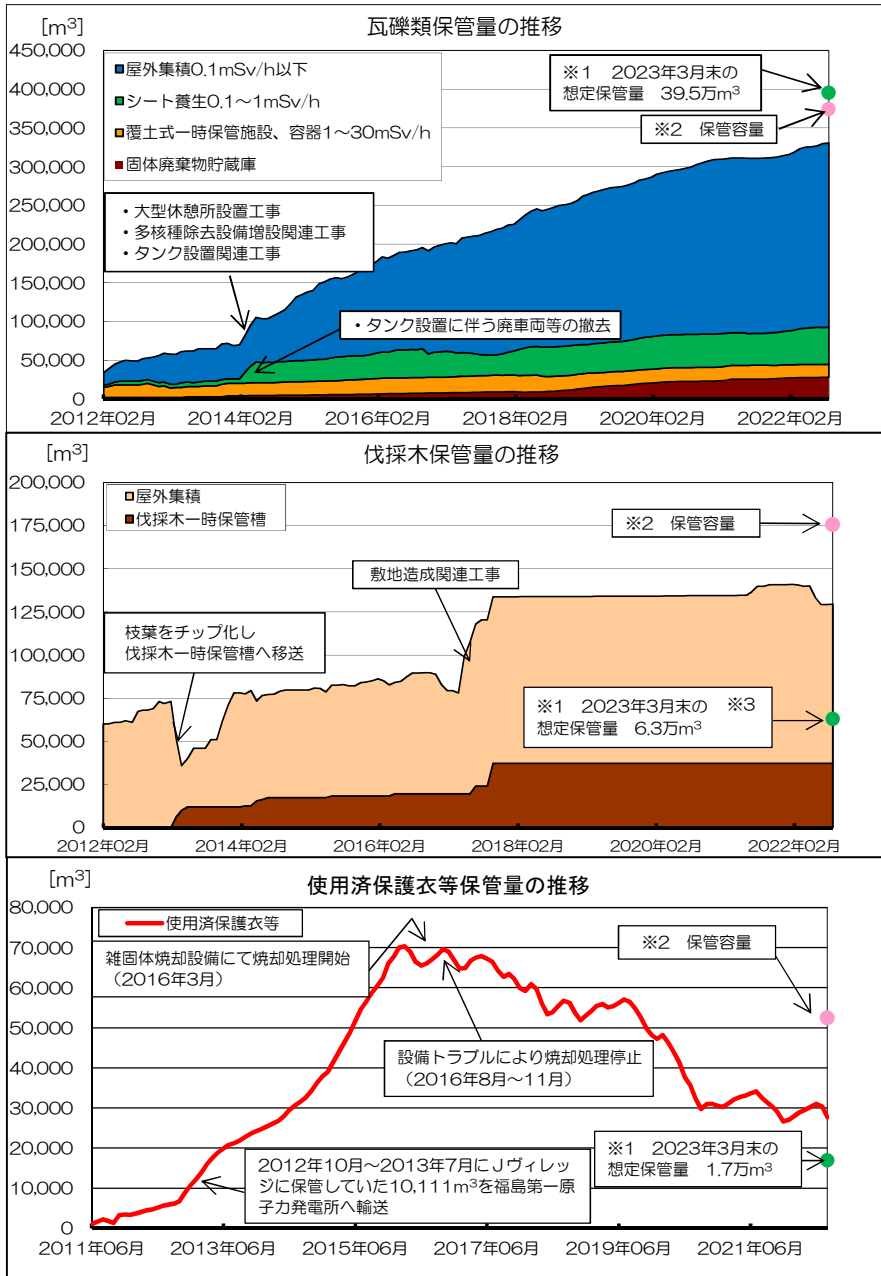


# 福島第一原子力発電所 固体廃棄物等保管エリアの構内配置図

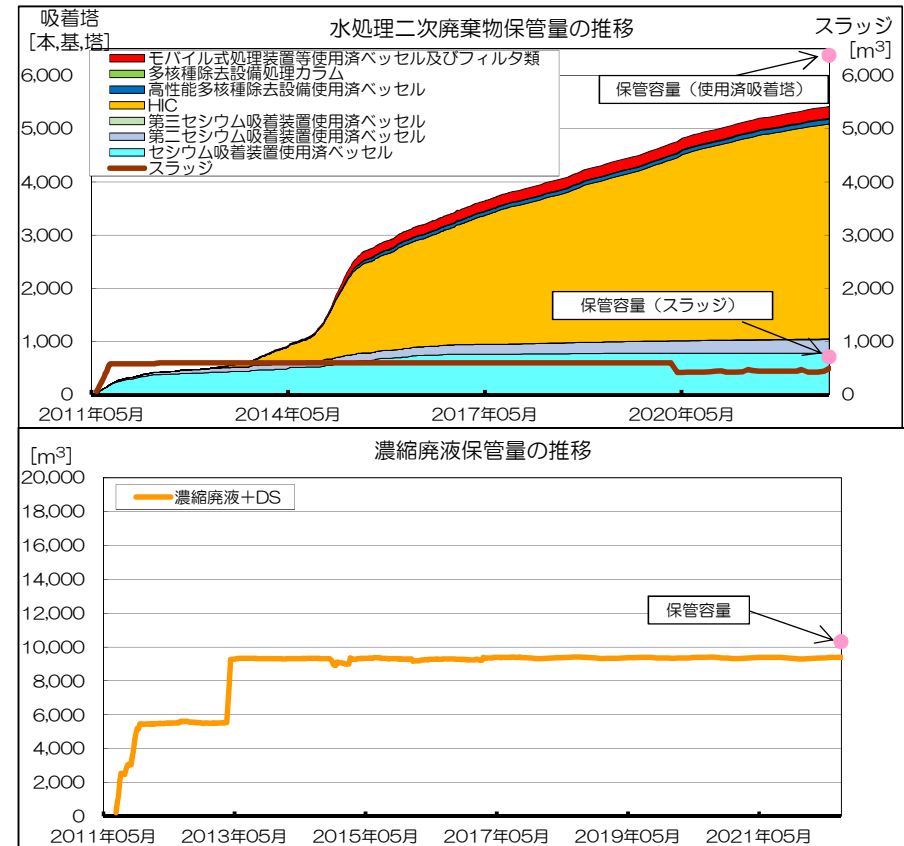




### 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2022.8.31時点)



### 水処理二次廃棄物の管理状況(2022.9.1時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2022年7月22日認可)の予測値を示す。  
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。  
 ※3 増設雑固体廃棄物焼却設備の竣工遅れに伴い見直し予定